

2024 年度 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人 21 世紀アカデメイア
専門学校東京デザイナー・アカデミー
学校関係者評価委員会

2025 年 6 月 12 日 作成

1. 学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像(アドミッションポリシー)

感動力…感受性を豊かにし、物事に感動できる力を持つ人。感動を伝えることができる人。

チャレンジ…何事に対しても前向きな好奇心を持ち、まずやってみようという気持ちを持つ人

自分らしさ…自分とはどんな人間か、他者とはどこが違うのかを考え、自分らしさをあらゆることに活かせる人

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 72.4%
- ・ 就職決定率 90.4%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次前期から後期へ 95.9%
- ・ 2年次前期から後期へ 94.8%

前年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次前期から後期へ 95%
- ・ 2年次前期から後期へ 90%

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

1)課題

2)今後の改善方策

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

課題点・改善点については、自己点検・自己評価委員会で話し合われているようなので、引き続きの取り組みを期待する

(3)教育活動

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3	やや不適切・・・2	不適切・・・1
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(4)学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	4	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

①業界就職率が75%と、姉妹校と比較して高いとのことだが、その理由については精査できているか(CG-ARTS 協会)

2)学校の回答

①東京は地方と比べてデザイン関連の求人が多く、そういった求人に応募できる機会も多い。地方ではひと通りデザイン関連の求人が出尽くすと、関連外の求人へと対象を移さざるを得ないが、東京は何度も挑戦できるため、デザイン関連の仕事に決まるまで就活を継続する傾向が強い。

一方で、就職活動が長期化するという負の側面もあるが、多くの学生は卒業までに就職を決めるという時間的制約よりも、実際に従事する職種や仕事内容を優先する。

3)特記事項

特筆すべき点なし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1

1) 委員からの提言

- ①メンタル面で問題を抱えている学生の対応は大変だと思われるが、それがさらに留学生であった場合、具体的にどのような対応をとっているのか
(藤原アイアンクラフト)

2) 学校の回答

- ①留学生のサポートは、スタッフ 4 名からなる専門の部署が当たっているが、主に生活面・語学面でのケアが中心となっている。メンタル面に関する問題のサポートは、日本人同様にスクールカウンセラーが行っている。現在は週に 1 回のペースで担当いただいているが、利用する学生が増えているため、今後スクールカウンセラーの増員を予定している。現在、求人をかけており、複数の応募者からの問い合わせをいただいている。

(6)教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

1)課題

①一般的に校舎の老朽化は、学生や保護者にとって大きな関心となっているので、具体的な改修計画等を明示すべきである(東京建築士会)

2)学校の回答

①築60年以上が経過しているため、校舎・設備の老朽化への喫緊の課題となっている。設備の改修については毎年予算化し、緊急性の高いものから順次着手しているが、工事をきっかけに新たな改修箇所が発覚するケースも多く、その都度、優先順位を吟味ながら着手している。計画の明示については、職員会議などで共有はしているが、学生・保護者への周知は充分とは言えない点があった。

3)特記事項

校舎・設備の老朽化については、校舎の建て替えなど根本的な解決も含めて検討してはどうか(東京建築士会)

(7)学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(8)財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(9)法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(10)社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

特筆すべき点なし

2)学校の回答

特筆すべき点なし

3)特記事項

特筆すべき点なし

(11)国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

1)委員からの提言

①どこの学校でも留学生は教室内で目立つ存在であり、日本人よりも一歩前に出ている印象を受ける。実際に年齢層も日本人より高く、授業という場の雰囲気左右する存在でもある。そういった留学生に対して指導するには、日本人学生に対するよりも、明確にハッキリと伝えないと理解してもらうことは難しい。そのあたりで工夫していることはあるか(藤原アイアンクラフト)

2)学校の回答

①留学生特有のコミュニケーションに関する問題については、以前にも教職員研修で取り上げた。その際、留学生に伝わりにくい日本語表現や、カタカナ表記は極力避けるといった具体的な指導を行っている。ただ、数年前の研修で、今となっては教職員の入れ替わりも進んでいるので、あらためて同様の研修の実施を企画しようと考えている。

3)特記事項

特筆すべき点なし

4, 総括

1)AI の活用について

①世の中の趨勢として、もはや無視することは困難である。専門である建築の分野では、業界でもまだまだ有効に活用できているとは言い難いが、学校としてガイドラインは策定する必要があると思われる(東京建築士会)

②CG-ARTS 協会では新しい才能発掘の登竜門としてのコンテスト「Next Young Artist Award」を実施しているが、そこでも AI について、どのように扱うべきか?といった議論になった。コンテストとして「新しいことに挑戦していこう」ということが趣旨となっているので、結果的に AI という新しい技術を否定すべきではないという結論に至った。ただし、作品のどこに、どのように使ったかということは明示してもらうようにしている。どれだけ AI で制作物を生成しても、どれを選ぶかという決定は人間が行う。そのためには審美眼が必要であり、それはデザインを学んできた人間にしかできないことである。よってデザインを学ぶ必要性は、これまでと同様に求められていくと考えている(CG-ARTS 協会)

③AI については、使い方だと考えている。例えば、履歴書の作成などは、ChatGPT などを利用して効率的に行い、その分ポートフォリオに入れる作品制作に注力するのは、十分に有効な使い方だと思う。AI で生成された文章が相応しいかどうかを最終的に判断するのは人間であり、その点においては、高校までの基礎学力は絶対に必要なもので、100%AI に丸投げしたことにはならない。面接の練習なども、AI を利用すれば壁打ちの要領で、誰の力を借りなくとも、十分に力をつけることができる。AI を否定するのではなく、正しい使い方、付き合い方を学ばせる方が現実的だと思う(藤原アイアンクラフト)

以上

学校関係者評価委員(敬称略)

- 委員 長 竹田 卓司(東京デザイナー・アカデミー 副校長)
- 委員 藤原 亮二(有限会社藤原アイアンクラフト / 企業等)
- 委員 佐々木龍郎(東京建築士会 / 業界団体等)
- 委員 宮内 舞(公益財団法人 画像情報教育振興協会:CG-ARTS 協会 / 業界団体等)
- 事務局 有賀 史彦・金井塚 睦(東京デザイナー・アカデミー 専任教員)